

# 続いて雪が降った日の昔ばなし

今坂柳二

その日も雪が脛のあたりまで積もっておった。んでもな、雪が深いぐれえで、おらたち休むことあできないんだ。あんで言ったって勤労働員令によって、麦の作切りや麦踏みだつてやっておれない体なんだからな。まず見たのは、工場の裏庭の辺りから聞こえる薪割りのかけ声だ。桑の木の根っこを割っているんだ。軍需工場らしからぬ風景でしたよ。三月十日の大空襲の直前だからね。一日に一度くらい、駅から馬が引いた石炭が来る。石炭の燃えカスを処理するのは、おらたちだ。町内の道が捨て場。勉強時間はあつたはずだが記憶が薄い。頭の隅っこに、暗い部屋だった映像があつて「大和寮」の文字が浮かんだ。床屋さんはK店で、順番がくると無料で刈ってくれたっけ。

おらがのクラスは少年兵志願者が六、七人おつてな、うちの一人が秀才のH。休み時間に少年飛行兵試験の様子を実演した。工場には糊を練る回転釜があり、二分ほど回転したあと正しく歩けるかどうかの試験だ。ぐらぐらしながら真つ直ぐ十歩進んで、気を付けの姿勢が取れるか。よろめきを踏み堪えたその顔が忘れられないんだ。

と、ここで、時効になつただろうモービルとウィルバーの悪戯ぶりを書いてしまいます。どっちが先に言い出したもんやら、一人が言つたんだよ。

「おい、あすこに手頃な煙突があるな。休み時間のうちに登ってみんか」

「おう、栗の木や柿の木よりか簡単だい」

「うん、ヒロセの大櫓もハチマン様の彫物もピッカピッカだんべ」

「うん、おらがの辺りは雪でまっしろだよ」

「今ごろはかあちゃん洗濯時間だ、めえるかもしんねえ」

そんなとき、下から班長さんの大声が聞こえたんだよ。何をやっておるんじや、貴さまら、小学生と

思つて加減しちよれば。いいか、わが工場は軍の

命令で新兵器を開発しとるんじや。軍人さんに

知れたら大変なことになる。黙つて降りてこんかい、

早く早く」

と、まあこーんな話。



いまさか りゅうじ  
狭山市笹井在住。二十四歳から俳句に関わって、現在同人誌「つばさ」代表。  
かたわら、昔ばなしの採集・採話を続け、「龍じいの昔ばなし」以下十冊発行。

## 編集後記

今号から紙面がカラーに。出来映えは如何でしょうか。小学校のPTA  
便りもカラーの時代、予算もあります、続けてゆきたいです。

顧問の大野松茂さんより、高麗1300年記念誌「渡来から未来へ」を頂きました。大野さんは一般社団法人高麗1300理事長で、記念行事を成功させました。137頁のカラーで豪華本、その中に市民芸術祭(第16回)記念行事の紹介と、横山前会長のコメント、大野さんが本会報に寄稿された事が書かれてました。立派な記念誌が刊行出来た熱意に頭が下がります。

(高沢正夫)